

C-2 製図と布が衿の出来上りに及ぼす効果について
梶山女大家政 ○富田明美 奥村詔子 安田盈子

目的 衿は被服全体からみれば、一部分ではあるがデザイン上非常に重要な位置を占めるものであり、衿を製作するに当つて製図の違いによる衿の出来上り効果とともに、用いる布地の効果もみのがすことは出来ないと考える。そこで本実験においてロールカラーを取りあげ、製図の違いによる衿の形状変化とともに布地の違いによる衿の出来上り効果を検討した。

方法 衿製図において、衿付線の違いを3種、布地としてウールジョージット・フラン・ポリエステルデシン・ブロード・デニムの5種を用いて15枚の衿を製作した。評価には官能検査と実測を行ない両者の一致性、関連性を求めた。評価は衿巾、衿腰、衿折山線、衿先の形、衿の首からの離れなどの項目について行ない、同時に好ましい製図と布地についても検討した。

結果、衿巾について官能検査では布の差が出て、実測では製図の差が顕著であつた。衿腰は官能検査と実測結果が一致し、布の差より製図の差が目立った。衿折山線の形状については官能検査と実測結果が一致しており、製図の差が顕著である。衿の首からの離れについても製図の差が出る。好まれる衿は③デニム、②ブロード ①ポリエステルデシンの布地であつた。